

酒類に関する国民ニーズ調査

須藤 茂俊・篠田 典子・高田 昭則・木崎 康造

Research of Public Needs on Alcoholic Beverages

Shigetoshi SUDO, Noriko SHINODA, Akinori TAKADA,
and Yasuzo KIZAKI

緒 言

酒類総合研究所は、独立行政法人化を契機として従来から行ってきた酒類及び酒類業に関する情報の収集及び提供業務の一層の充実を図るため、情報を国内外から幅広く収集、整理して、国民に提供していくこととした。しかし、酒類等に関する情報は極めて多岐にわたることから、国民が真に求めている情報を提供するには、国民の求める情報の内容と優先順位を的確に把握する必要がある。そこで、平成13年度に国民が酒類に関してどのような情報を求めているか把握するため、ニーズ調査を実施したので報告する。

なお、本調査は、平成13年度の研究所の年度計画に盛り込まれたものである。

調 査 方 法

1. 調査の概要

調査に当たっては、国民ニーズの全体像が的確に把握でき、調査項目の内容及び表現方法が適切であることに留意した。また、調査方法は、電話、ダイレクトメール及び面接等の中から、回答率、費用負担等を勘案して電子メールによる方法とした。電子メールによる費用は、概ね700円/1回答である。調査は、平成14年3月5日(火)～12日(火)に実施した。

2. 調査対象者

調査対象者は、お酒に興味がある成人とし、データの偏りをなくすために年齢、性別及び地域性

に配慮し、各都道府県別に一定数を、残りは各都道府県別の人口分布に合わせランダムに募集することとした。調査対象者の募集と調査の実務は、これにふさわしい電子メール会員数をもつ業者に委託することとし、その中から、iMi ネットを擁する(株)富士通総研を選定した。iMi ネットを用いて回答者を募集した上で、Webサイトで回答する方法とした。iMi ネットの会員数は、約55万人で、そのうちお酒に興味があるグループは約15万人であり調査母集団としては適当と判断した。

なお、お酒に興味のない人及び未成人を除外したのは、お酒に興味のない人等では各質問に真摯に答えることが難しく、ニーズ調査の信頼性を低くすると考えたからである。

3. アンケート票

調査は表1に示したアンケート票により行い、質問は①興味のあるお酒の種類、②1番興味のあるお酒についての情報の関心分野、③詳しくは知らないお酒の情報、④社会生活上必要なお酒の情報、⑤お酒に関する情報提供の手段、⑥意見や感想(自由記述)の6問とした。また、アンケート票には、当研究所が公的機関であること及びデータの取り扱い等について記載し、回答者の信頼を高めるように配慮した。まず質問1で、興味のあるお酒についてアンケートし、次に、質問2で最も興味のあるお酒の種類ごとの関心分野を明らかにすることとした。質問3は、回答者自身が不足していると感じている知識分野を明らかにするた

表1 アンケート票

<p>お酒に興味をお持ちのあなたに！ あなたが知りたいお酒の情報をお聞かせ下さい！</p>
<p>はじめまして 独立行政法人酒類総合研究所と申します。 当研究所は、お酒を専門に研究する公的な研究所で、1年ほど前に国税庁醸造研究所から発展的に移行した独立行政法人です。このたびお酒に興味をお持ちの皆様から「お酒について知りたい情報」をお聞かせいただき、当研究所のお酒の情報収集の参考にさせていただきたいと思っています。以下のアンケートへのご協力、よろしくお願いいたします。 ・本調査は独立行政法人酒類総合研究所が富士通総研に委託して実施するものです。 ・本調査の結果は、酒類情報収集項目の決定など当研究所の業務以外には使用しません。 ・個別結果は公表しませんが、集計結果については公表する予定です。</p>
<p>質問1 次のお酒の中から、興味が強い順に必ず3つ選択して下さい。なお、その他を選んだ方は具体的に記入して下さい。 ①清酒 ②合成清酒 ③焼酎(米焼酎、麦焼酎、いも焼酎、泡盛、ホワイトリカーなど) ④みりん ⑤ビール ⑥発泡酒 ⑦ワイン ⑧ウイスキー ⑨ブランデー ⑩スピリッツ類(ジン、ラムなど) ⑪リキュール類(梅酒やカクテルなど) ⑫その他()</p>
<p>質問2 質問1であなたが1番目に選んだお酒は、どのような分野に関心がありますか。次の中から関心が高い順に必ず3つ選択して下さい。なお、その他を選んだ方は、具体的に記入して下さい。 ①アルコール度数や色、香り、味などの特徴 ②製造場や製造方法 ③きき酒の方法やおいしい飲み方 ④ラベル表示事項や購入時のポイント ⑤容器や酒器(グラスやお銚子など) ⑥歴史的経緯やエピソード ⑦健康との関係(酒は百薬の長、適正飲酒) ⑧料理との相性 ⑨市場価格や酒税、格付け制度(フランスワインやドイツワインの格付け制度など) ⑩その他()</p>
<p>質問3 全く知らないか、または断片的には知っているが詳しくは知らないお酒の情報はなんですか。次の中から知らない順に必ず3つ選択して下さい。なお、その他を選んだ方は具体的に記入して下さい。 ①お酒の種類(お酒には、清酒、合成清酒、焼酎、みりん、ビール、ワイン、ウイスキー、ブランデー、スピリッツ類、リキュール類、発泡酒などがあります。) ②アルコール度数や色、香り、味などの特徴 ③お酒の製造方法 ④お酒ごとのきき酒の方法やおいしい飲み方 ⑤お酒のラベル表示項目や購入時のポイント ⑥宴会などにおける飲酒マナー ⑦お酒と料理との相性 ⑧お酒と健康 ⑨酒税やお酒の格付け ⑩その他()</p>
<p>質問4 お酒について社会生活上どのような情報が必要と考えますか。次の中から必要度が高いと思われる順に必ず3つ選択して下さい。なお、その他を選んだ方は、具体的に記入して下さい。 ①お酒に関する一般知識(種類や製造方法、アルコール度数など) ②宴会などにおける飲酒マナー ③公共の場における飲酒マナー ④飲酒と健康の関係 ⑤新成人に対するお酒の正しい知識 ⑥未成年者に対する飲酒の弊害 ⑦お酒に関する相談窓口(お酒についての質問や相談を受け付ける機関などの一覧) ⑧お酒の品質保証(お酒の品質を第3者機関等が認証した旨の表示) ⑨ラベル表示の見方(ラベルに記載されている事項の解説) ⑩その他()</p>
<p>質問5 当研究所では、お酒に関する情報提供を予定しています。どのような方法で情報を提供してほしいと思いますか。次の中から希望の高い順に必ず3つ選択して下さい。なお、その他を選んだ方は、具体的に記入して下さい。 ①書籍 ②ビデオやCD-ROM ③インターネットのホームページ ④メールマガジン(電子メール) ⑤テレフォンサービス(電話) ⑥郵送(希望者に資料を送付) ⑦訪問(資料閲覧や面談) ⑧講演会 ⑨ポスターやビラ(希望者に配付) ⑩当研究所の定期刊行物 ⑪その他()</p>
<p>質問6 お酒について知りたい情報や提供方法などについて、その他のご意見やご要望がありましたら自由にお書きください。()</p>

め、詳しくは知らないお酒の情報を求めた。質問4は、個人として必要な情報ではないが社会的に求められる酒の情報とは何かとの視点でアンケートした。質問5は情報の提供手段を明らかにするために、質問6は自由記述として回答者の酒類に関する生の声を聞くこととした。

結果と考察

1. 回答状況

アンケート発信数は3,587で、有効回答数は

2,979(回収率83.0%)であった。回答者の性別、年代別及び職業別の分布を表2に示した。男性は1,504人(50.5%)、女性は1,475人(49.5%)とほぼ半々であった。年代別では、20代924人(31.0%)、30代1,297人(43.5%)、40代572人(19.2%)及び50代以上186人(6.2%)と、50代以上が少なく若、中年主体の構成であった。職業は、社員が最も多く、次いで専業主婦、パート・アルバイト、学生の順であった。全体の回答者のうち、独身者は1,231人(41.3%)、既婚者は1,748人(58.7%)であった。回答者の

表2 回答者の性別、年代及び職業別の分布

単位：人（％）

職 業	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代 以上	小計	20代	30代	40代	50代 以上	小計	
会社員	191	415	266	63	935 (70.2)	185	175	29	7	396 (29.8)	1,331 (100.0)
専門職（弁護士等）	5	10	7	2	24 (60.0)	5	8	3		16 (40.0)	40 (100.0)
公務員	24	47	34	15	120 (81.1)	10	14	3	1	28 (18.9)	148 (100.0)
教職	3	10	7	2	22 (66.7)	8	2	1		11 (33.3)	33 100.0
自営業	12	62	44	20	138 (71.9)	9	25	14	6	54 (28.1)	192 (100.0)
学生	123	3	1		127 (62.9)	75				75 (37.1)	202 (100.0)
パート・アルバイト	19	5	1	1	26 (11.8)	73	77	38	6	194 (88.2)	220 (100.0)
専業主婦		4	1		5 (0.8)	116	364	99	31	610 (99.2)	615 (100.0)
無職	20	12	5	19	56 (60.2)	18	13	5	1	37 (39.8)	93 (100.0)
その他	7	23	11	10	51 (48.6)	21	28	3	2	54 (51.4)	105 (100.0)
合 計	404	591	377	132	1,504 (50.5)	520	706	195	54	1,475 (49.5)	2,979 (100.0)
(独身)	(343)	(252)	(72)	(9)	(676) (44.9)	(341)	(177)	(29)	(8)	(555) (37.6)	(1,231) (41.3)
(既婚)	(61)	(339)	(305)	(123)	(828) (55.1)	(179)	(529)	(166)	(46)	(920) (62.4)	(1,748) (58.7)

表3 回答者の居住地の分布

単位：人（％）

国税局	県	人数	国税局	県	人数	国税局	県	人数
札幌	北海道	94(3.2)		山梨県	30(1.0)	広島	岡山県	39(1.3)
仙台 207	青森県	30(1.0)	金沢	富山県	28(0.9)	177	広島県	58(1.9)
	岩手県	35(1.2)		石川県	33(1.1)		山口県	33(1.1)
	宮城県	53(1.8)		福井県	31(1.0)		徳島県	30(1.0)
	秋田県	36(1.2)	名古屋	岐阜県	54(1.8)	高松	香川県	40(1.3)
	山形県	30(1.0)		静岡県	62(2.1)		愛媛県	33(1.1)
	福島県	23(0.8)		愛知県	139(4.7)		高知県	26(0.9)
茨城県	53(1.8)	三重県		43(1.4)	福岡		福岡県	59(2.0)
栃木県	47(1.6)	大阪	滋賀県	39(1.3)		佐賀県	15(0.5)	
群馬県	35(1.2)		京都府	62(2.1)		長崎県	28(0.9)	
埼玉県	154(5.2)		大阪府	227(7.6)		熊本	熊本県	23(0.8)
新潟県	36(1.2)		兵庫県	140(4.7)			大分県	32(1.1)
長野県	30(1.0)		奈良県	39(1.3)	宮崎県		17(0.6)	
千葉県	174(5.8)		和歌山県	30(1.0)	鹿児島県		22(0.7)	
東京 872	東京都	415(13.9)		鳥取県	20(0.7)	沖縄	沖縄県	22(0.7)
	神奈川県	253(8.5)		島根県	27(0.9)	全 国	2,979(100.0)	

居住地を都道府県別に表3に示した。東京都が13.9%で最も多く、以下神奈川県が8.5%、大阪府が7.6%で続き、最も少なかったのは佐賀県の0.5%（15人）であった。データは、各都道府県

の人口割合にほぼ見合っていた。50代以上が少ないものの、回答者の各種構成割合から見て、本調査は、酒類に関する国民ニーズを概ね把握しているものと考えられた。

1. 興味あるお酒

質問1の興味あるお酒についての結果を図1に示した。図の棒グラフ中の数字は、選ばれたお酒の回答者全員に対する割合であり、例えばビールでは1番目に興味があるとした回答が回答者数2,979人中の688人(23.1%)、2番目に興味があるとした回答が2,979人中の636人(21.3%)、3番目に興味があるとした回答が2,979人中の432人(14.5%)であることを示している。

なお、1番目にビールを選択した人は、2番目ではビール以外の酒類を、3番目では、ビール及び2番目で選択した酒類以外の酒類を選択することになる。以下、図3、図6、図7及び図8も同様である。

興味あるお酒として、1番目に興味があるお酒として選ばれたのは、「ビール(23.1%)」で、以下「ワイン(19.5%)」、「清酒(17.6%)」、「リキュール類(14.5%)」及び「発泡酒(11.7%)」の順であった。3番目までの累計においてもこの順番に変わりがなく、蒸留酒よりも醸造酒に興味が高い傾向であった。

1番目に興味があるお酒を性別、年代別に見ると、図2に示したように男性では「ビール(27.5%)」、「清酒(21.7%)」、「ワイン(13.1%)」の順番であったが、女性では「ワイン(26.0%)」、「リキュール類(20.3%)」、「ビール(18.6%)」の順で、男女間で酒類の興味対象が異なっていた。年代別では、年齢が高くなるほど男性では清酒の割合が高くなり、女性ではビールの比率が高

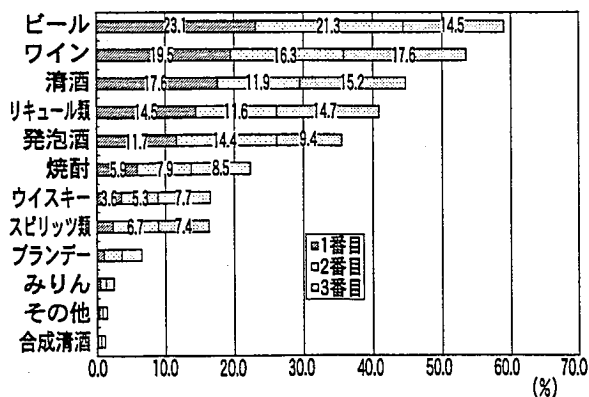


図1 興味あるお酒 (3番目までの累計)

くなった。20代では、男女ともリキュール類の割合が高いが、年齢が高くなるほどその割合は減少した。

興味あるお酒の3番目までの累積値を性別、年代別に表4に示した。表中の各欄の上段はその酒類を選んだ回答者の3番目までの累積度数、下段は1番目、2番目及び3番目のそれぞれの選ばれた割合(%)の合計を表している。累積値では、国民の酒類に関するニーズの幅を見ることができると考えられる。

男女別に比較すると、男性では「ビール」、「清酒」及び「ワイン」の順に、女性では「ワイン」、「リキュール類」及び「ビール」の順に興味が強くなり、図2に示した1番目に興味がある酒類の結果と同じであった。種類別に比較すると、清酒では男女とも年齢が高くなるほど興味を示す人の割合が増加する傾向にあった。焼酎は、女性より男性が興味を示した。発泡酒は30代及び40代の女性が高い興味を示した。ワインは、男性より女性の方が20%も高い割合を示した。ウイスキーとブランデーは女性より男性の興味が強く、その割合は2倍から3倍の差があった。また、ウイスキーでは男性の20代は、興味ある割合が他の年代と比べ低かった。スピリッツ類は、20代の男女に

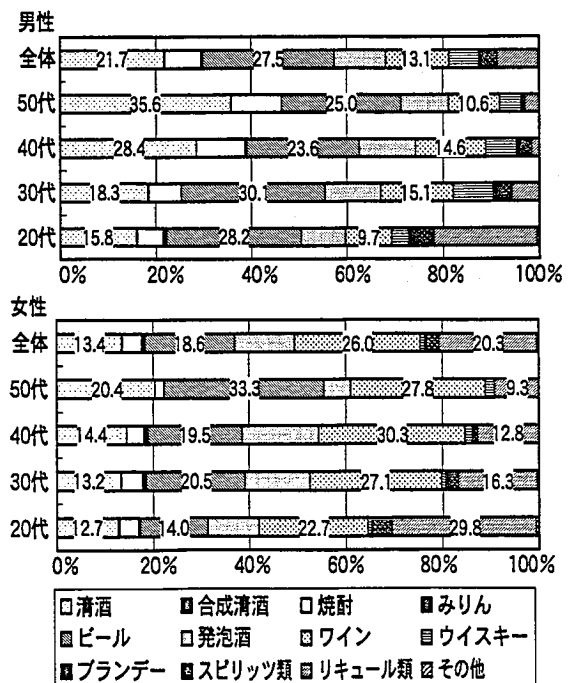


図2 興味あるお酒 (1番目)の性別・年代別の傾向

表4 興味あるお酒（3番目までの累積、性別・年代別）

単位：人（％）

酒類の種類	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代以上	小計	20代	30代	40代	50代以上	小計	
清酒	168 (41.6)	290 (49.1)	204 (54.1)	87 (65.9)	749 (49.8)	178 (34.2)	289 (40.9)	85 (43.6)	31 (57.4)	583 (39.5)	1,332 (44.7)
合成清酒	9 (2.2)	5 (0.8)	3 (0.8)	1 (0.8)	18 (1.2)	8 (1.5)	6 (0.8)		1 (1.9)	15 (1.0)	33 (1.1)
焼酎	81 (20.0)	167 (28.3)	139 (36.9)	53 (40.2)	440 (29.3)	78 (15.0)	119 (16.9)	20 (10.3)	9 (16.7)	226 (15.3)	666 (22.4)
みりん	9 (2.2)	14 (2.4)	4 (1.1)	6 (4.5)	33 (2.2)	10 (1.9)	23 (3.3)	5 (2.6)	2 (3.7)	40 (2.7)	73 (2.5)
ビール	248 (61.4)	408 (69.0)	250 (66.3)	89 (67.4)	995 (66.2)	243 (46.7)	385 (54.5)	99 (50.8)	34 (63.0)	761 (51.6)	1,756 (58.9)
発泡酒	142 (35.1)	192 (32.5)	126 (33.4)	43 (32.6)	503 (33.4)	161 (31.0)	273 (38.7)	103 (52.8)	15 (27.8)	552 (37.4)	1,055 (35.4)
ワイン	159 (39.4)	263 (44.5)	172 (45.6)	52 (39.4)	646 (43.0)	314 (60.4)	462 (65.4)	132 (67.7)	37 (68.5)	945 (64.1)	1,591 (53.4)
ウイスキー	63 (15.6)	154 (26.1)	122 (32.4)	41 (31.1)	380 (25.3)	34 (6.5)	53 (7.5)	17 (8.7)	9 (16.7)	113 (7.7)	493 (16.5)
ブランデー	30 (7.4)	59 (10.0)	31 (8.2)	11 (8.3)	131 (8.7)	19 (3.7)	30 (4.2)	11 (5.6)	2 (3.7)	62 (4.2)	193 (6.5)
スピリッツ類	91 (22.5)	82 (13.9)	28 (7.4)	2 (1.5)	203 (13.5)	152 (29.2)	105 (14.9)	26 (13.3)	3 (5.6)	286 (19.4)	489 (16.4)
リキュール類	206 (51.0)	131 (22.2)	50 (13.3)	11 (8.3)	398 (26.5)	352 (67.7)	363 (51.4)	84 (43.1)	19 (35.2)	818 (55.5)	1,216 (40.8)
その他	6 (1.5)	8 (1.4)	2 (0.5)		16 (1.1)	11 (2.1)	10 (1.4)	3 (1.5)		24 (1.6)	40 (1.3)
合計	1,212 (300)	1,773 (300)	1,131 (300)	396 (300)	4,512 (300)	1,560 (300)	2,118 (300)	585 (300)	162 (300)	4,425 (300)	8,937 (300)

興味を持たれているが、年代が高くなるに従いその割合は低くなった。リキュール類は、女性に高い（55.5％）興味を持たれており、特に若い年代になるほどその割合は高かった。また、男性でも20代はビールに次ぐ高い割合を示した。

職業別の表は示さないが、清酒は、専門職、無職、教職、公務員に興味を高くもたれているものの、学生、専業主婦で低かった。ビールは、教職、学生、パート・アルバイト、専業主婦を除き、最も興味ある酒類として選ばれた。教職、パート・アルバイト、専業主婦で興味が最も高かったのは、ワインであった。また、学生はリキュールに最も高い興味を示した。発泡酒は、他の職業と比べパート・アルバイト、専業主婦で興味が高かった。その他の回答では、チューハイ、バーボンが多かったが、これらは本来リキュール類、ウイスキーにそれぞれ入るものであった。

2. 関心分野

質問2の各回答項目をその順番にそれぞれ「成分・品質」、「蔵元・製造法」、「きき酒・飲み方」、「表示・選び方」、「容器・酒器」、「歴史」、「健康」、「料理との相性」、「価格・酒税・格付け」及び「その他」と略称して集計した。

図3に、関心分野として選ばれた項目の割合を3番目まで累計して示した。1番目に選ばれたものの中で最も関心の高かったのは、「成分・品質（59.1％）」で全体の約6割を占めた。次いで「きき酒・飲み方（13.1％）」、「価格・酒税・格付け（7.4％）」の順であったが、「成分・品質」とは大きな差が見られた。「健康」、「表示・選び方」、「歴史」及び「容器・酒器」は、割合が低く、意外に関心が低かった。国民の強い関心は、アルコール度数や色、香り、味などの酒類の特徴にあることが認められた。3番目までの累計においてもこの傾向は変わらないが、「価格・酒税・格付け」

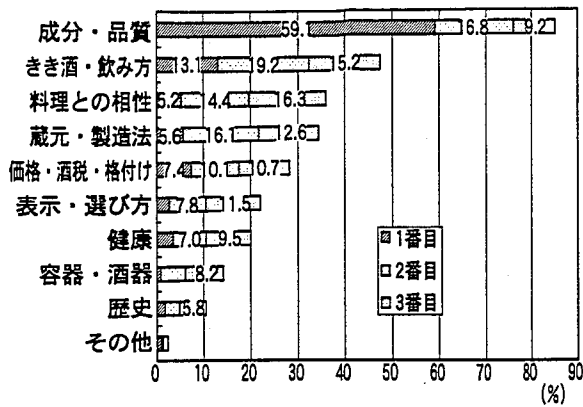


図3 関心のある分野 (3番目までの累計)

に代わって、「料理との相性」及び「蔵元・製造法」が上位となった。1番目に「成分・品質」とした回答者が、2番目、3番目の関心分野として料理との相性や蔵元・製造法をより多く選択したためと考えられた。

次に、興味ある酒類ごとに関心分野がどのように異なるかを調べた。質問1の興味あるお酒として1番目に選択された酒類ごとに最も関心がある分野(1番目)の割合を図4に示した。どの酒類においても圧倒的に「成分・品質」が第1に選ばれており、酒類の興味の違いに関わらず、アルコール分等の成分や色、香り、味などの酒類の特徴に強い関心があることが認められた。次に選ばれ

たものは、発泡酒を除き「きき酒・飲み方」となっていたが、発泡酒では「価格・酒税・格付け」となり、他と異なる傾向にあった。その他、ウィスキー及びブランデーでは「歴史」に、ワインでは「料理との相性」に関心がある人が比較的多かった。

また、興味ある酒類ごとに関心分野の3番目までを累計した割合を図5に示した。この場合は、質問1の興味ある酒類として1番目に選択した酒類ごとに、関心分野の1番目、2番目及び3番目の割合を累計して表している。図中の数字はその累計値であり、各円グラフの累計値の合計は300%となる。図5を見ると、どの酒類においても最も関心のある分野は、「成分・品質」であり、図4の結果と変わりがなかった。関心分野の1番目に「成分・品質」を選択した場合、2番目及び3番目では成分・品質を選ぶことが出来ないため、次善の関心分野の割合が高くなっていった。「成分・品質」以外の項目について酒類ごとに特徴を見てみると、清酒では「きき酒・飲み方」及び「蔵元・製造法」に関心が高く、焼酎では「きき酒・飲み方」及び「健康」に高い関心があった。ビールでは「成分・品質」以外では、「蔵元・製造法」、「きき酒・飲み方」、「表示・選び方」、「料

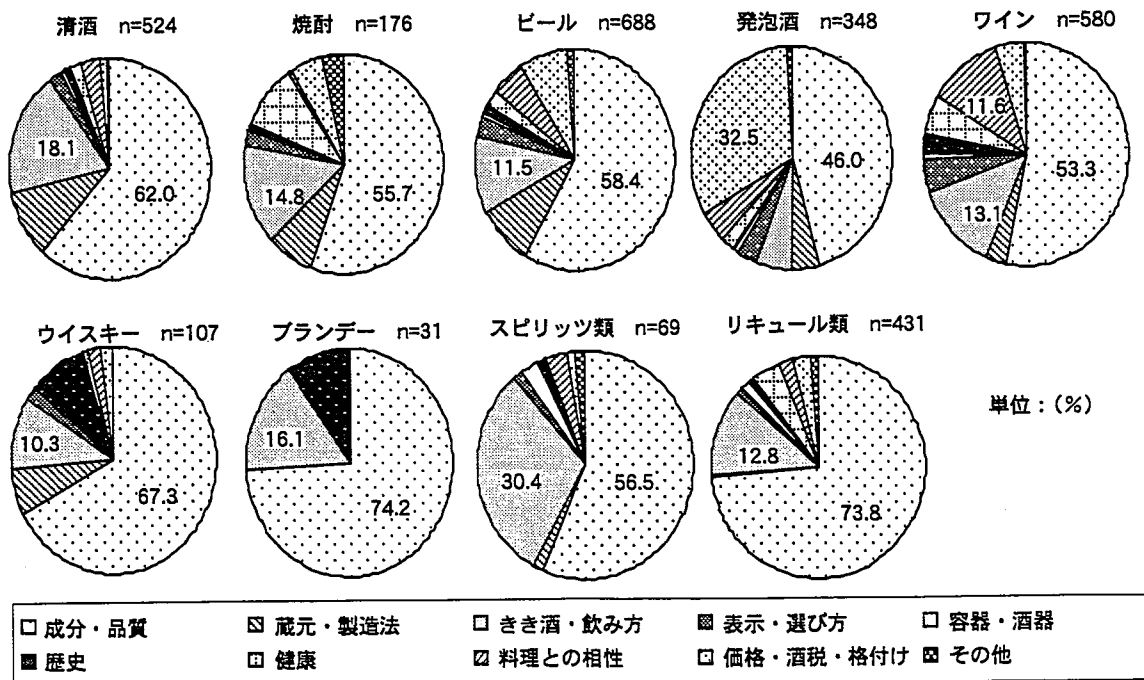


図4 興味あるお酒の種類別の関心分野 (1番目)

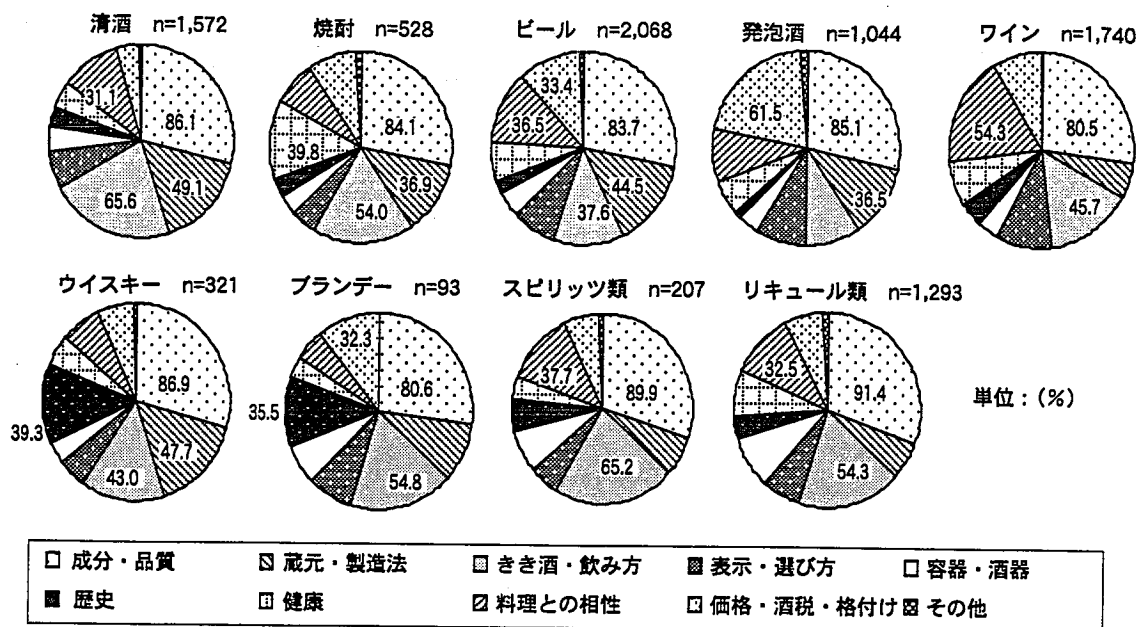


図5 興味あるお酒の種類別の関心分野（3番目までの累計）

理との相性」及び「価格・酒税・格付け」に同程度の関心があった。発泡酒は「価格・酒税・格付け」に高い関心が示されたが、低価格であることや税金が安いことなどが関心を高めた理由と思われる。ワインは「きき酒・飲み方」とともに「料理との相性」の割合が高く、ワインに興味のある

人にとっては、ワインと料理は強く結びついているものと考えられた。ウイスキーでは、歴史に関心を持つ人の割合が他の酒類と比べ高かった。スピリッツ類とリキュール類は、「容器・酒器」に関心がある人の割合が他の酒類と比べて高く、カクテル等を飲むときには酒器が深く関係するため

表5 関心のあるお酒の分野（3番目までの累積、性別・年代別）

単位：人(%)

項目	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代以上	小計	20代	30代	40代	50代以上	小計	
成分・品質	344 (85.1)	496 (83.9)	319 (84.6)	107 (81.1)	1,266 (84.2)	447 (86.0)	601 (85.1)	173 (88.7)	47 (87.0)	1,268 (78.5)	2,534 (85.1)
きき酒・飲み方	223 (55.2)	262 (44.3)	159 (42.2)	52 (39.4)	696 (46.3)	294 (56.5)	339 (48.0)	69 (35.4)	18 (33.3)	720 (48.8)	1,416 (47.5)
料理との相性	121 (30.0)	165 (27.9)	109 (28.9)	31 (23.5)	426 (28.3)	219 (42.1)	316 (44.8)	81 (41.5)	25 (46.3)	641 (43.5)	1,067 (35.8)
蔵元・製造法	128 (31.7)	243 (41.1)	181 (48.0)	67 (50.8)	619 (41.2)	120 (23.1)	212 (30.0)	58 (29.7)	14 (25.9)	404 (27.1)	1,023 (34.3)
価格・酒税・格付け	132 (32.7)	197 (33.3)	114 (30.2)	32 (24.2)	475 (31.6)	114 (21.9)	169 (23.9)	64 (32.8)	19 (35.2)	366 (24.8)	841 (28.2)
表示・選び方	75 (18.6)	138 (23.4)	68 (18.0)	24 (18.2)	305 (20.3)	104 (20.0)	182 (25.8)	53 (27.2)	10 (18.5)	349 (23.7)	654 (22.0)
健康	70 (17.3)	105 (17.8)	74 (19.6)	47 (35.6)	296 (19.7)	96 (18.5)	143 (20.3)	42 (21.5)	19 (35.2)	300 (20.3)	596 (20.0)
容器・酒器	63 (15.6)	66 (11.2)	38 (10.1)	15 (11.4)	182 (12.1)	112 (21.5)	90 (12.7)	33 (16.9)	5 (9.3)	240 (16.3)	422 (14.2)
歴史	50 (12.4)	86 (14.6)	57 (15.1)	16 (12.1)	209 (13.9)	46 (8.8)	49 (6.9)	8 (4.1)	3 (5.6)	106 (7.2)	315 (10.6)
その他	6 (1.5)	14 (2.4)	12 (3.2)	5 (3.8)	37 (2.5)	8 (1.5)	17 (2.4)	4 (2.1)	2 (3.7)	31 (2.1)	68 (2.3)
合計	1,212 (300)	1,773 (300)	1,131 (300)	396 (300)	4,512 (300)	1,560 (300)	2,118 (300)	585 (300)	162 (300)	4,425 (300)	8,937 (300)

と推察された。

全体をとおして、清酒、焼酎、ビール、ウイスキーなどの伝統的な酒類に興味のある人は、「蔵元・製造法」に関心が高い傾向にあった。一方、ワインでは「料理との相性」や「きき酒・飲み方」等に関心が高かった。

お酒の関心分野について、性別、年代別の違いを明らかにするため、興味のあるお酒の種類に関係なく、全回答者について関心分野の3番目までの回答の累積値を性別、年代別に表5に示した。表中の各欄の内容は表4と同じで、上段はその関心分野を選んだ回答者の3番目までの累積度数、下段は1番目、2番目及び3番目のそれぞれの選ばれた割合(%)の合計を表している。

「成分・品質」は、男女別、年代別で見ても最も関心の高い分野であった。「きき酒・飲み方」は、男女とも年齢が低くなるほど関心が高くなる傾向にあった。年代が高くなるほど関心が低くなるのは、飲酒経験を積むことによって飲み方をマスターする人が増えてくるためであろうか。「料理との相性」は、女性の方が男性より関心が高く、一方、「蔵元・製造法」は、男性の方が女性より関心が高い傾向にあった。そのほか、50代以上は、他の年代と比べ男女とも健康に関心があり、「歴史」については、男性が女性の約2倍の割合で関心が高い結果となっていた。「その他」の数は少ないが、その内容は原料や添加物に関するものが比較的多かった。

3. 詳しくは知らないお酒の情報

質問3の各回答項目をその順番にそれぞれ「種類」、「成分・品質」、「製造法」、「きき酒・飲み方」、「表示・選び方」、「飲酒マナー」、「料理との相性」、「健康」、「酒税・格付け」及び「その他」と略称して集計した。図6に、詳しくは知らない酒の情報として選ばれた項目の割合を3番目まで累計して示した。

詳しくは知らないお酒の情報として、第1に選ばれたのは、「酒税・格付け(43.0%)」で、次いで「表示・選び方(11.4%)」、「製造法(11.1%)」及び「きき酒・飲み方(10.3%)」の順であ

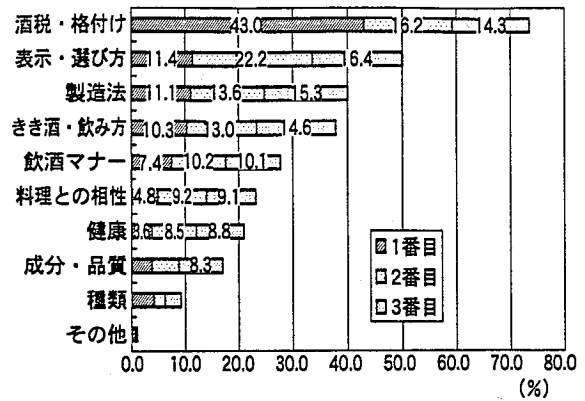


図6 詳しくは知らないお酒の情報(3番目までの累計)

った。この傾向は、3番目までの累積においても変わりなかった。アルコール分や香り・味などの成分・品質についての割合が低いのは、これらが非常に関心が高い分野であり(図3)、ある程度の知識を持っているためと考えられた。酒税・格付けについて詳しくは知らない割合が高いのは、消費者に品質ほど積極的に関心がないことと酒税等の情報に接する機会が少ないためと思われる。

詳しくは知らないお酒の情報について、性別、年代別の特徴を知るために、全回答者について3番目までの回答の累積値を性別、年代別に表6に示した。表中の各欄の内容は表4と同じである。男女別及び年代別でも「酒税・格付け」の割合が最も高かったが、「酒税・格付け」以外では、女性に比べ男性は「料理との相性」、「飲酒マナー」の割合がやや高く、男性に比べ女性は「酒税・格付け」、「製造方法」の割合がやや高い傾向にあった。「製造方法」は、女性より男性の方が比較的良好に知っていると考えられた。しかも、年代が高くなるに従って割合が低下していることから、生活体験の中で知識を獲得しているものと推察された。

職業別の表は示さないが、どの職業においても「酒税・格付け」が詳しくは知らないお酒の情報の1番目に上げられた。3番目までの累積値と比較すると、教職や学生では「飲酒マナー」の割合が他の職業と比べて高かった。また、教職、パー

表7 お酒について必要な情報（3番目までの累積、性別・年代別）

単位：人(%)

項目	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代以上	小計	20代	30代	40代	50代以上	小計	
公共での飲酒マナー	264 (65.3)	331 (56.0)	207 (54.9)	64 (48.5)	866 (57.6)	300 (57.7)	379 (53.7)	99 (50.8)	29 (53.7)	807 (54.7)	1,673 (56.2)
飲酒と健康	175 (43.3)	267 (45.2)	168 (44.6)	70 (53.0)	680 (45.2)	235 (45.2)	341 (48.3)	91 (46.7)	34 (63.0)	701 (47.5)	1,381 (46.4)
未成年者の飲酒弊害	108 (26.7)	182 (30.8)	126 (33.4)	41 (31.1)	457 (30.4)	176 (33.8)	329 (46.6)	85 (43.6)	21 (38.9)	611 (41.4)	1,068 (35.9)
飲酒マナー	194 (48.0)	216 (36.5)	128 (34.0)	36 (27.3)	574 (38.2)	212 (40.8)	187 (26.5)	50 (25.6)	13 (24.1)	462 (31.3)	1,036 (34.8)
一般知識	165 (40.8)	191 (32.3)	130 (34.5)	43 (32.6)	529 (35.2)	189 (36.3)	208 (29.5)	56 (28.7)	18 (33.3)	471 (31.9)	1,000 (33.6)
品質保証	102 (25.2)	210 (35.5)	143 (37.9)	50 (37.9)	505 (33.6)	123 (23.7)	236 (33.4)	69 (35.4)	19 (35.2)	447 (30.3)	952 (32.0)
ラベル表示	80 (19.8)	157 (26.6)	104 (27.6)	42 (31.8)	383 (25.5)	147 (28.3)	188 (26.6)	61 (31.3)	13 (24.1)	409 (27.7)	792 (26.6)
新成人への知識	87 (21.5)	144 (24.4)	81 (21.5)	32 (24.2)	344 (22.9)	126 (24.2)	160 (22.7)	51 (26.2)	10 (18.5)	347 (23.5)	691 (23.2)
相談窓口	36 (8.9)	68 (11.5)	41 (10.9)	18 (13.6)	163 (10.8)	47 (9.0)	84 (11.9)	23 (11.8)	5 (9.3)	159 (10.8)	322 (10.8)
その他	1 (0.2)	7 (1.2)	3 (0.8)		11 (0.7)	5 (1.0)	6 (0.8)			11 (0.7)	22 (0.7)
合計	1,212 (300)	1,773 (300)	1,131 (300)	396 (300)	4,512 (300)	1,560 (300)	2,118 (300)	585 (300)	162 (300)	4,425 (300)	8,937 (300)

番目までの回答の累積値を性別、年代別に表7に示した。表中の各欄の内容は表4と同じである。「飲酒と健康」は、男女とも必要な情報として高い割合を示しているが、特に50代以上は他の年代に比べ必要と考えていることがわかった。「未成年者の飲酒弊害」は、男性より女性の方が必要とする割合が高かった。「飲酒マナー」は、男女とも20代が他の年代より10%以上高かった。また、男性の方が必要とする割合が高く、酒宴での付き合いが多いことがその理由と考えられた。「一般知識」も20代の必要とする割合が他の年代と比べ高かった。「品質保証」は、反対に30代以上が高かった。20代は、お酒に親しみはじめた頃で、お酒の知識や飲み方のマナーなどを取り入れようとの意欲が強いことがうかがえた。

職業別の表は示さないが、職業別では「公共での飲酒マナー」は、専門職、公務員、学生で割合が高く、社会における公的な飲酒マナーの必要性を感じていることがわかった。学生は、「飲酒マナー」でも高い割合を示していた。「未成年者の飲酒弊害」については、専門職、公務員における

割合は相対的に低く、パート・アルバイト及び専業主婦で高い割合を示しており、子供を持つ女性が危惧している点と推察された。その他の回答数は少ないが、酒税の情報、アルコール中毒に関する情報などがあった。

5. 情報提供の方法

質問5のお酒に関する情報提供の方法については、情報の提供媒体別に選ばれた項目の割合を3番目まで累計して図8に示した。第1に選ばれた

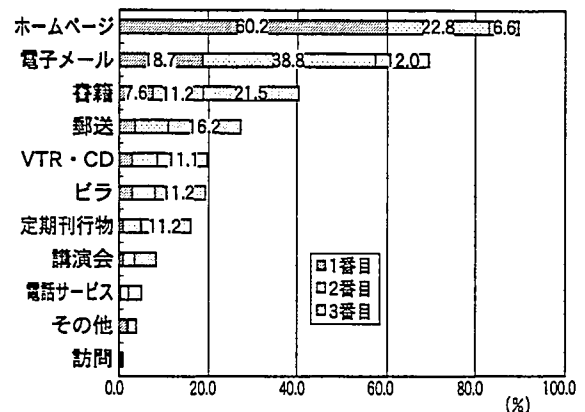


図8 情報提供の方法（3番目までの累計）

表6 詳しくは知らないお酒の情報（3番目までの累積、性別・年代別）

単位：人（%）

項目	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代以上	小計	20代	30代	40代	50代以上	小計	
酒税・格付け	262 (64.9)	393 (66.5)	278 (73.7)	96 (72.7)	1,029 (68.4)	391 (75.2)	573 (81.2)	156 (80.0)	38 (70.4)	1,158 (78.5)	2,187 (73.4)
表示・選び方	173 (42.8)	253 (42.8)	178 (47.2)	72 (54.5)	676 (44.9)	273 (52.5)	396 (56.1)	114 (58.5)	29 (53.7)	812 (55.1)	1,488 (49.9)
製造法	166 (41.1)	216 (36.5)	111 (29.4)	37 (28.0)	530 (35.2)	254 (48.8)	313 (44.3)	75 (38.5)	20 (37.0)	662 (44.9)	1,192 (40.0)
きき酒・飲み方	138 (34.2)	229 (38.7)	136 (36.1)	49 (37.1)	552 (36.7)	181 (34.8)	287 (40.7)	85 (43.6)	25 (46.3)	578 (39.2)	1,130 (37.9)
飲酒マナー	151 (37.4)	190 (32.1)	135 (35.8)	23 (17.4)	499 (33.2)	152 (29.2)	125 (17.7)	41 (21.0)	10 (18.5)	328 (22.2)	827 (27.8)
料理との相性	124 (30.7)	167 (28.3)	124 (32.9)	41 (31.1)	456 (30.3)	91 (17.5)	108 (15.3)	21 (10.8)	10 (18.5)	230 (15.6)	686 (23.0)
健康	94 (23.3)	164 (27.7)	89 (23.6)	29 (22.0)	376 (25.0)	87 (16.7)	122 (17.3)	32 (16.4)	4 (7.4)	245 (16.6)	621 (20.8)
成分・品質	59 (14.6)	93 (15.7)	46 (12.2)	31 (23.5)	229 (15.2)	83 (16.0)	128 (18.1)	45 (23.1)	21 (38.9)	277 (18.8)	506 (17.0)
種類	44 (10.9)	64 (10.8)	29 (7.7)	13 (9.8)	269 (9.0)	46 (8.8)	57 (8.1)	11 (5.6)	5 (9.3)	119 (8.1)	269 (9.0)
その他	1 (0.9)	4 (0.7)	5 (1.3)	3 (2.3)	13 (0.9)	2 (0.4)	7 (1.0)	5 (2.6)		14 (0.9)	27 (0.9)
合計	1,212 (300)	1,773 (300)	1,131 (300)	396 (300)	4,512 (300)	1,560 (300)	2,118 (300)	585 (300)	162 (300)	4,425 (300)	8,937 (300)

ト・アルバイト、専業主婦では「表示・選び方」の割合がやや高く、弁護士、医師などの専門職は料理との相性を上げている割合が他の職業と比べ高かった。「その他」では、酒類の保存方法を知りたいなどの意見があった。

4. お酒について必要な情報

質問4の各回答項目をその順番にそれぞれ「一般知識」、「飲酒マナー」、「公共での飲酒マナー」、「健康」、「新成人への知識」、「未成年者の飲酒弊

害」、「相談窓口」、「品質保証」、「ラベル表示」及び「その他」と略称して集計した。図7に、お酒について必要な情報として選ばれた項目の割合を3番目まで累計して示した。

社会生活を営む上で必要なお酒の情報では、第1に選ばれたのは「公共での飲酒マナー（24.5%）」で、次いで「飲酒と健康（16.7%）」、「一般知識（14.2%）」の順であった。しかし、3番目までを累積すると、「公共での飲酒マナー」、「飲酒と健康」の次には、「未成年者の飲酒弊害」及び宴席などでの「飲酒マナー」が「一般知識」より上位となり、国民はお酒を上手に適度に楽しむ必要があると考えているように思われた。酒宴の場のマナーや未成年者の飲酒を含む健康など、酒類の社会的規制についての情報の必要性を強く感じているものと推察された。「ラベル表示」や「品質保証」は、それに比べて必要性が低いと認識されていた。また、お酒に関する相談窓口についての割合も低かった。

社会生活上必要なお酒の情報についての性別、年代別の傾向を知るために、全回答者について3

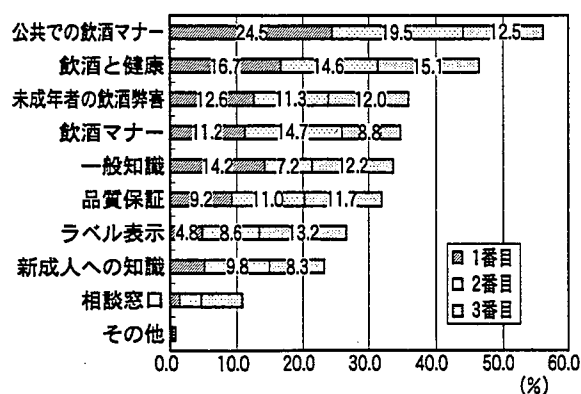


図7 お酒について必要な情報（3番目までの累計）

のは「ホームページ (60.2%)」で、過半数を超えていた。次いで、「電子メール (18.7%)」、「書籍 (7.6%)」の順であった。2番目の選択では「電子メール (38.8%)」が最も多く選ばれていた。3番目までの累積でも、この順序は変わらなかった。一方、「訪問」(資料の閲覧や面談)、「電話サービス」、「講演会」の希望は、非常に少なかった。今回のアンケートの回答者が、インターネットの使用者であることが、情報提供手段としてホームページや電子メールが圧倒的に好まれた理由と考えられた。

性別、年代別及び職業別に見た場合にも大きな違いはないが、男性は「VTR・CD」を選んだ割

合が女性より高く、女性はポスターやビラを配付する方法を選んだ割合が男性より高い傾向にあった。「その他」の方法では、テレビが過半数を占め、次いで新聞、雑誌であった。

6. 地域性

国民の酒類別の関心分野や詳しくは知らない情報などを、全体として、また性別、年代別に把握することができたが、全国の各地域におけるニーズに差があるかどうかは明らかでない。そこで、地域におけるニーズの違いを明らかにするため、質問の1から4について地域を各国税局単位としてまとめ、検討した。データは、各質問の1番目

表8 興味あるお酒の地域性

(%)

	国税局(所)	清酒	合成清酒	焼酎	みりん	ビール	発泡酒	ワイン	ウイスキー	ブランデー	スピリッツ類	リキュール類	その他	合計
1	札幌	14.9	0.4	5.7	1.1	17.4	13.5	21.6	4.6	2.8	4.3	13.5	0.4	100.0
2	仙台	15.3	1.1	7.7	0.8	20.9	11.8	16.3	6.0	2.4	6.0	11.4	0.3	100.0
3	関東信越	15.4	0.2	6.0	0.7	19.6	13.0	17.3	6.3	1.8	4.8	14.3	0.8	100.0
4	東京	15.3	0.3	7.7	1.0	18.7	10.6	19.4	6.6	1.6	6.0	12.5	0.3	100.0
5	金沢	13.4	0.0	8.7	0.7	21.0	15.2	15.6	3.3	2.2	4.3	14.1	1.4	100.0
6	名古屋	15.1	0.4	7.0	0.7	18.5	11.3	17.0	5.3	2.6	6.6	15.1	0.4	100.0
7	大阪	14.3	0.5	7.1	0.6	20.0	11.9	18.2	4.6	2.2	5.6	14.7	0.4	100.0
8	広島	15.8	0.0	6.0	1.1	21.5	13.4	16.0	3.6	3.2	5.8	13.6	0.0	100.0
9	高松	15.2	0.3	7.5	0.8	20.2	12.9	15.5	4.9	2.6	4.1	15.8	0.3	100.0
10	福岡	13.4	0.3	10.1	0.7	21.9	11.8	17.0	5.2	2.9	3.6	12.1	1.0	100.0
11	熊本	14.5	0.4	11.3	1.4	21.3	9.9	15.2	6.4	2.5	2.5	14.5	0.0	100.0
12	沖縄	7.6	1.5	16.7	1.5	22.7	12.1	15.2	1.5	1.5	7.6	9.1	3.0	100.0
	平均	14.2	0.4	8.5	0.9	20.3	12.3	17.0	4.9	2.4	5.1	13.4	0.7	
	標準偏差	2.2	0.4	3.1	0.3	1.6	1.4	1.9	1.5	0.5	1.4	1.9	0.8	

表9 興味あるお酒の関心分野

(%)

	国税局(所)	成分・品質	きき酒・飲み方	料理との相性	蔵元・製造法	価格・酒税・格付	表示・選び方	健康	容器・酒器	歴史	その他	合計
1	札幌	28.4	14.9	14.5	11.0	9.6	8.9	3.9	5.0	3.5	0.4	100.0
2	仙台	27.4	15.3	10.8	12.7	10.3	6.3	7.9	4.2	4.5	0.6	100.0
3	関東信越	29.1	15.1	11.2	13.1	8.7	8.2	5.8	4.4	3.8	0.7	100.0
4	東京	28.7	16.3	12.2	11.2	8.4	6.7	7.0	4.5	4.3	0.8	100.0
5	金沢	28.2	17.2	9.9	12.1	10.3	7.3	8.1	4.8	1.8	0.4	100.0
6	名古屋	27.4	17.3	10.5	11.7	9.4	6.3	7.9	4.8	3.6	1.0	100.0
7	大阪	28.2	14.4	13.3	10.6	9.7	8.3	5.8	6.1	2.5	0.9	100.0
8	広島	29.0	17.5	11.7	11.5	10.5	6.4	7.2	3.2	2.8	0.2	100.0
9	高松	28.2	16.1	10.9	10.1	11.4	8.8	6.2	5.4	1.8	1.0	100.0
10	福岡	26.8	15.0	13.4	11.4	11.1	6.9	5.9	4.2	3.6	1.6	100.0
11	熊本	27.7	16.3	11.7	11.3	9.2	7.8	7.4	4.3	4.3	0.0	100.0
12	沖縄	31.8	16.7	9.1	7.6	10.6	12.1	6.1	1.5	4.5	0.0	100.0
	平均	28.4	16.0	11.6	11.2	10.0	7.8	6.6	4.4	3.4	0.6	
	標準偏差	1.3	1.1	1.6	1.4	0.9	1.7	1.2	1.1	1.0	0.5	

から3番目までに選択された回答の累計を用い、各地域ごとにその全回答数を100%とした時の各項目の割合で示した。従って、各地域の全回答数は回答者数の3倍となり、札幌282、仙台621、関東信越1065、東京2616、金沢276、名古屋894、大阪1611、広島531、高松387、福岡306、熊本282及び沖縄66となった。

質問1の興味のあるお酒の地域性を表8に示した。全体的には大きな差が見られなかったが、沖縄では「清酒」、「焼酎」、「ウイスキー」及び「リキュール類」に対する興味が他の国税局より低かった。また、福岡、熊本では、沖縄とともに「焼酎」に興味のある割合が他の地域より高い傾向が見られた。他の国税局では、札幌で「ワイン」、金沢で「発泡酒」に対する興味が高かった。興味のあるお酒の関心分野については、表9に示した。沖縄では「料理との相性」、「蔵元・製造法」及び「容器・酒器」への関心が低く、「成分・品質」及び「表示・選び方」に関心が高い傾向があり、札幌では「健康」に対する関心が低かった。質問3及び4についての表は省略するが、詳しくは知らないお酒の情報では、沖縄で「製造法」、熊本で「種類」に対する割合が低いほかは、国税局間に大きな違いは見られなかった。また、お酒について必要な情報では、札幌で「未成年者の飲酒弊害」の割合が低く、沖縄では高い傾向にあった。「飲酒マナー」についても、同様の傾向にあり沖縄で強く求められていることが認められた。このほか、札幌では「ラベル表示」、金沢では「相談窓口」の割合が他の局と比べ高く、沖縄では「一般知識」及び「品質保証」の割合が低かった。

7. 自由回答

設問6の自由回答は、全体の46%の人が要望

及び意見を記載していた(表10)。性別では、女性の方がやや多く、年代が高い方の回答率が男女とも高かった。要望及び意見は、多岐にわたり、ここにまとめることは難しい。質問に関することは、「酒類に関するQ&A」の質問事項として回答を整理し、意見に関することは、今後の情報収集や成果の普及業務の中で生かしていきたいと考えている。

ま と め

酒類に関する国民のニーズ調査を行い、次のような結果を得た。

- (1) アンケート調査は、3,587人のお酒に興味のある成人に対し電子メール方式で行い、2,979人(回収率83%)の有効回答を得た。回答者は男性及び女性がほぼ半分ずつ、年代別には青、中年主体、職業も多くのジャンルから、そして全国の都道府県の人口構成にほぼ見合った回答状況であった。
- (2) 興味あるお酒の質問では、1番目に興味があるお酒として選ばれたのは、「ビール」で、次いで「ワイン」、「清酒」及び「リキュール類」の順であった。性別、年代別に見ると、男性は「ビール」、「清酒」及び「ワイン」の順で、女性は「ワイン」、「リキュール類」及び「ビール」の順となり、興味が異なった。年代別では、年齢が高くなるに従って男性は「清酒」の割合が高まり、女性は「ビール」と「ワイン」の割合が高くなっていた。20代の男女では、「リキュール類」の割合が最も高かった。
- (3) 興味あるお酒の関心分野の質問では、1番目に選ばれたのは興味ある酒類に関係なく「成分・品質」であり、約60%を占めた。「健康」、「表示・選び方」、「歴史」及び「容器・酒器」

表10 自由回答の性別、年代別回答者

	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代以上	小計	20代	30代	40代	50代以上	小計	
全回答者(人)	404	591	377	132	1,504	520	706	195	54	1,475	2,979
設問6回答者(人)	149	246	180	68	643	239	368	100	32	739	1,382
回答率(%)	36.9	41.6	47.7	51.5	42.8	46.0	52.1	51.3	59.3	50.1	46.4

は、意外に関心が低かった。酒類ごとに見ると、「成分・品質」の次に選ばれたのは、清酒では「きき酒・飲み方」及び「蔵元・製造法」、ワインでは「きき酒・飲み方」及び「料理との相性」と異なっていた。発泡酒では、「価格・酒税・格付け」が「成分・品質」の次に選ばれており、発泡酒に興味がある人は価格や税に関する関心が高いと考えられた。

(4) 詳しくは知らないお酒の情報の質問では、「酒税・格付け」が最も多く、次いで「表示・選び方」、「製造法」の順であった。

(5) 社会生活上必要な酒類の情報の質問では、

「公共での飲酒マナー」が第1に上げられ、次いで「飲酒と健康」、「一般知識」、「未成年者の飲酒弊害」及び「飲酒マナー」の順となり、お酒の社会的規制に関することが必要と認識されていることがうかがえた。

(6) 情報の提供手段に関する質問では、今回のアンケートの回答者がインターネットの使用者である理由からか、1番目に選ばれたのはホームページで、次いで選ばれた電子メールと合わせて約80%の人が、インターネットを用いた情報提供を望んでいた。